

景況レポート

No.134

2021年1月～3月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1

電話(代) 0157-66-3111

URL: <http://www.shinkin.co.jp/kitami/>

本レポートはホームページでもご覧になれます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が4月1日に発表した3月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で▲11となり、前回の調査『▲10』から悪化しました。内訳では、製造業(前回▲13→今回▲9)は改善、非製造業(前回▲9→今回▲11)は悪化しました。2021年6月までの全産業での先行き予測は▲14と、悪化の見通しです。

また、4月1日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている。個人消費は、引き続き低い水準となっており、持ち直しの動きが足踏みしている。観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。輸出、住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は減少している。公共投資は高水準で推移している。生産は持ち直している。雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。

- ・ 公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額は、高水準で推移している。
- ・ 個人消費は、スーパー、ドラッグストア、家電販売は、底堅い動きとなっている。乗用車販売は、持ち直しのペースが鈍化している。コンビニエンスストアは、やや低い水準で推移している。百貨店は、引き続き低い水準となっており、持ち直しの動きが足踏みしている。サービス消費は、引き続き低い水準にあり、弱い動きとなっている。
- ・ 観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。
- ・ 新設住宅着工戸数をみると、持家は横ばい圏内の動きとなっている。貸家は低水準で推移している。分譲は高めの水準で推移している。
- ・ 生産(鉱工業生産)は、電気機械などでは持ち直している。輸送機械では持ち直しのペースが鈍化している。食料品では、一部に弱めの動きがみられるものの、横ばい圏内の動きとなっている。紙・パルプでは低水準で推移している。
- ・ 雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。
- ・ 消費者物価(除く生鮮食品)は、エネルギー価格を中心に前年を下回っている。
- ・ 企業倒産は、低水準で推移している。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲40と2ポイントの改善、収益も▲39と2ポイントの改善でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲20、収益DI値は▲24と、改善の見通しとなっています。

特別調査 【新型コロナ感染拡大長期化の影響と新常态（ニューノーマル）への対応について】

新型コロナ感染拡大の長期化は、中小企業の経営に甚大な影響を及ぼしています。一方で、一部の企業では、新型コロナ後の新常态（ニューノーマル）を踏まえ、新たな事業戦略を採用するところも出てきています。そこで今回は、新型コロナ感染拡大長期化の影響について調査するとともに、新常态（ニューノーマル）への対応についても調査しました。

【例年と比較した売上の変化】

「ほぼ変化なし（10%未満の増減）」が37.2%と最も高く、以下「10%以上30%未満の減少」（29.4%）、「30%以上50%未満の減少」（12.8%）が続きました。

【新常态へ移行していくなかでの事業継続上の不安】

「先行き不透明による計画策定困難化」が43.1%と最も高く、以下「既存事業の需要減少」（39.8%）、「雇用の確保、維持、継続」（28.7%）が続きました。

【IT人材の状況とIT活用の効果】

IT人材については、「足りている」が17.0%、「足りていない」の合計が39.8%、「IT人材の必要性を感じていない」が43.2%となりました。

IT活用の効果については、「効率化による経費節減」が23.2%、「顧客利便性の向上」が10.2%となりましたが、「IT活用には取り組んでいない」が53.1%となり、多数を占めています。

【設備投資の意向とスケジュール】

設備投資の意向については、「設備投資の意向はない」が55.9%となり、最も高くなりました。

スケジュールの影響については、「当初から予定はなく、設備投資はしない」が61.9%となり、最も高くなりました。

【今後想定される事業展開の実施または検討】

「本業での新商品・サービスの展開」が29.3%、「本業の国内取引先深耕（生産・販売・調達等）」が26.5%となった一方で、「特になし」が37.0%となりました。

【貴社における今期（1～3月）の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1～3月と比較して、どの程度変化しましたか。次の1～8の中からお答えください。】

	《全国》	
1. 90%以上の減少	1.1%	0.9%
2. 70%以上90%未満の減少	6.7%	5.4%
3. 50%以上70%未満の減少	5.6%	6.8%
4. 30%以上50%未満の減少	12.8%	12.6%
5. 10%以上30%未満の減少	29.4%	35.1%
6. ほぼ変化なし（10%未満の増減）	37.2%	31.7%
7. 10%以上30%未満の増加	6.1%	6.5%
8. 30%以上の増加	1.1%	0.9%

【経済社会全体が新常态（ニューノーマル）へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、不安、心配、懸念のない方は0とお答えください。】

	《全国》	
1. 先行き不透明による計画策定困難化	43.1%	40.7%
2. 既存事業の需要減少	39.8%	34.6%
3. 取引先の経営不安定化	16.6%	19.3%
4. デジタル化、オンライン化への対応の遅れ	12.2%	13.4%
5. 雇用の確保、維持、継続	28.7%	24.7%
6. 感染拡大防止対策の負荷増大	18.2%	16.1%
7. 事業構造転換の必要性増大	9.4%	9.1%
8. 事業承継問題への悪影響	8.8%	5.7%
9. その他	2.8%	0.8%
0. 不安、心配、懸念はない	10.5%	12.7%

【新常态（ニューノーマル）へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にありますが、貴社のIT人材はどのような状況ですか。また、貴社でのIT活用はどのような効果を挙げていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。】

IT人材の状況		《全国》	
1. 足りている	17.0%	16.2%	
2. 足りていない（内部育成で対応）	21.6%	24.5%	
3. 足りていない（外部人材採用で対応）	3.4%	3.4%	
4. 足りていない（外部業者に委託で対応）	14.8%	12.9%	
5. IT人材の必要性を感じていない	43.2%	43.0%	
IT活用の効果			
6. 売上げの上昇	5.6%	7.9%	
7. 効率化による経費節減	23.2%	23.7%	
8. 顧客利便性の向上	10.2%	11.4%	
9. IT活用に取り組んだが効果が			
出していない	7.9%	5.7%	
0. IT活用には取り組んでいない	53.1%	51.3%	

【貴社では、新常态（ニューノーマル）へ向けて、どのような設備投資の意向がありますか。また、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。】

設備投資の意向		《全国》	
1. 新製品・新サービス進出対応	6.8%	7.1%	
2. 老朽化設備等の更新	23.7%	17.8%	
3. 生産・販売能力増強	7.9%	7.9%	
4. 合理化・省力化・IT化	5.7%	12.1%	
5. 設備投資の意向はない	55.9%	55.0%	
スケジュールへの影響			
6. 当初予定通り実施	14.3%	16.0%	
7. 計画を後ろ倒しして実施	8.9%	10.0%	
8. 当初予定はなかったが補助金等の			
活用により実施	4.2%	8.1%	
9. 予定はあったが、中止・凍結した	10.7%	6.4%	
0. 当初から予定はなく、設備投資はしない	61.9%	59.5%	

【貴社では、今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますか。該当するものを以下の1～9より最大3つまでお答えください。なお、特になしという方は0を選択ください。】

	《全国》	
1. 本業の国内取引先深耕		
（生産・販売・調達等）	26.5%	45.7%
2. 本業での新商品・サービスの展開	29.3%	27.2%
3. 本業の海外展開（生産・販売・調達等）	1.7%	3.8%
4. 副業（既存の別事業）の拡大	8.3%	6.0%
5. 新規事業への参入（多角化）	9.4%	9.8%
6. 本業の縮小	7.2%	4.6%
7. 副業（既存の別事業）の縮小	1.1%	0.5%
8. 業種転換	3.9%	1.4%
9. M&Aの活用等	7.7%	4.7%
0. 特になし	37.0%	32.8%

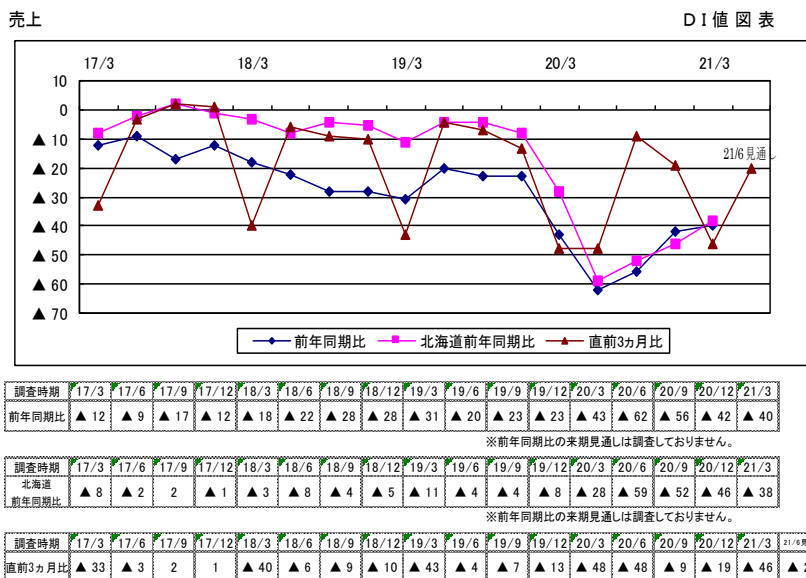
売上

調査対象先企業181社の売上を総体的にみますと、前年同期（20年1～3月）と比較して「増加」した先17%、「変らず」の先26%、「減少」した先57%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲40となり、前回調査より2ポイント改善しました。

業種別でみますと、製造業・小売業は改善、卸売業・建設業・サービス業は悪化となっています。

3ヵ月毎の比較では悪化、今後3ヵ月は改善の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



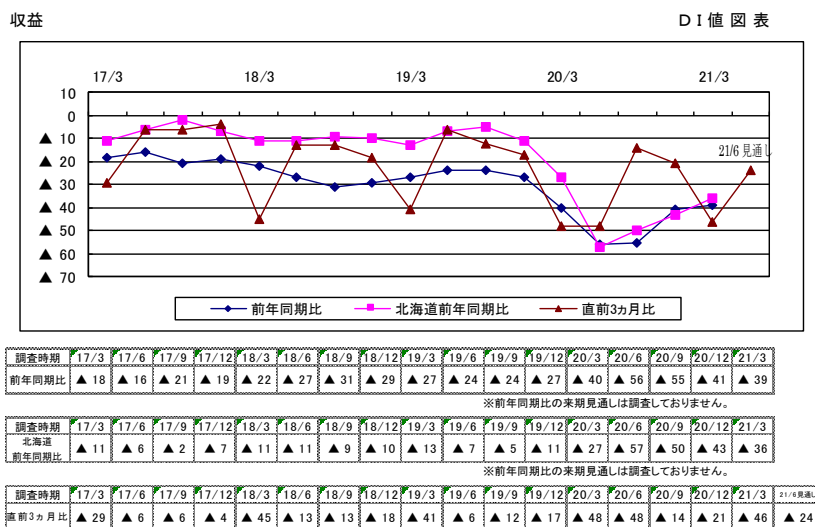
収益

調査対象先企業181社の収益を総体的にみますと、前年同期（20年1～3月）と比較して「増加」した先15%、「変らず」の先31%、「減少」した先54%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査より2ポイント改善しました。

業種別でみますと、製造業・小売業は改善、卸売業・建設業・サービス業は悪化となっています。

3ヵ月毎の比較では悪化、今後3ヵ月は改善の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



概況

調査先製造業全体の業況を前年同期（20年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先16%、「変らず」の先29%、「減少」した先55%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査より13ポイント改善しました。

収益は「増加」した先13%、「変らず」の先35%、「減少」した先52%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査より16ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(20/12)	4	7	20	▲52
	今回(21/3)	5	9	17	▲39
収益	前回(20/12)	3	8	20	▲55
	今回(21/3)	4	11	16	▲39

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善しました。

内訳をみますと、木材製品が大きく改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

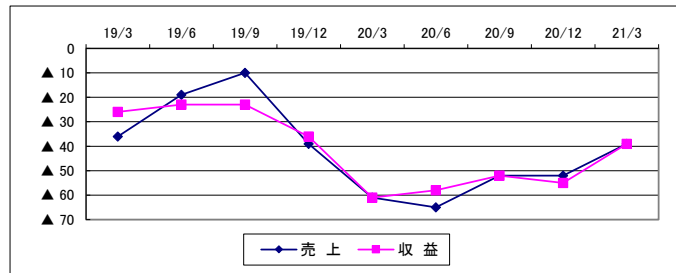
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善の見通しです。

調査員のコメントには、「今のところコロナによる影響は少ないが、今後の受注状況が心配である」、「コロナの影響により、住宅等の建築需要が低下しており、それに合わせて木材製品の売上也減少傾向にある」といったものがありました。

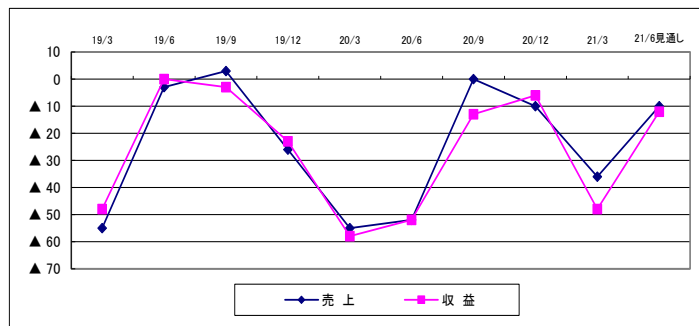
前年同期比

DI値図表



直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6見通し
売上	▲55	▲3	3	▲26	▲55	▲52	0	▲10	▲36	▲10
収益	▲48	0	▲3	▲23	▲58	▲52	▲13	▲6	▲48	▲12

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	食 料 品	木材製品	建設関連	そ の 他
売 上 額	10月～12月と比較	▲ 36	▲ 14	▲ 50	▲ 43	▲ 29
	4月～6月の見通し	▲ 10	0	0	0	▲ 43
収 益	10月～12月と比較	▲ 48	▲ 57	▲ 70	▲ 43	▲ 14
	4月～6月の見通し	▲ 12	▲ 14	0	▲ 14	▲ 29
販売価格	10月～12月と比較	3	0	10	0	0
	4月～6月の見通し	7	14	0	14	0
原材料 価 格	10月～12月と比較	29	57	0	43	29
	4月～6月の見通し	35	43	10	86	14
原材料 在 庫	10月～12月と比較	19	43	0	14	29
	4月～6月の見通し	13	29	0	0	29
資金繰	10月～12月と比較	▲ 10	0	▲ 20	▲ 14	0
	4月～6月の見通し	▲ 13	▲ 14	▲ 30	0	0

概 況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（20 年 1～3 月）と比較してみますと、売上で「増加」した先 18%、「変らず」の先 14%、「減少」した先 68%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲50 となり、前回調査より 14 ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先 14%、「変らず」の先 22%、「減少」した先 64%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲50 となり、前回調査より 18 ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先 23%、「変らず」の先 63%、「減少」した先 14%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は 9 となり、前回調査より 23 ポイント下降しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(20/12)	5	4	13	▲36
	今回(21/3)	4	3	15	▲50
収益	前回(20/12)	6	3	13	▲32
	今回(21/3)	3	5	14	▲50
販売価格	前回(20/12)	8	13	1	32
	今回(21/3)	5	14	3	9

動 向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は下降しました。
内訳をみますと、建設関連が大きく悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は横ばいとなりました。

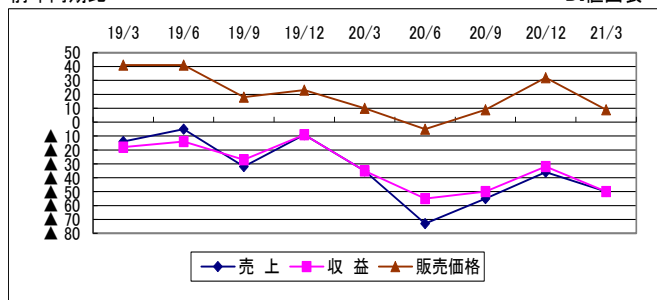
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善し、販売価格は上昇する見通しです。

調査員のコメントには、「コロナの影響は小さいが、物価の変動や需要の低下を懸念しており、柔軟な対応が必要と考えている」「コロナ感染対策の商材が好調で、定期的な注文を確保している」といったものがありました。

前年同期比

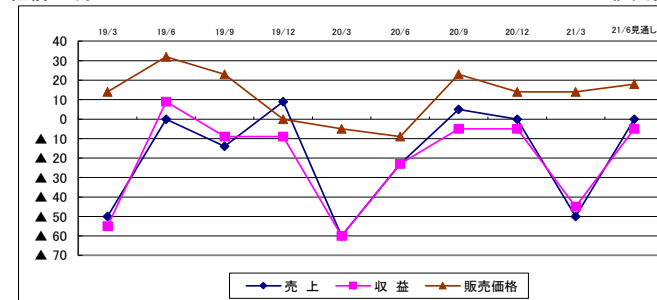
DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3
売上	▲14	▲5	▲32	▲9	▲35	▲73	▲55	▲36	▲50
収益	▲18	▲14	▲27	▲9	▲35	▲55	▲50	▲32	▲50
販売価格	41	41	18	23	10	▲5	9	32	9

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6見通し
売上	▲50	0	▲14	9	▲60	▲23	5	0	▲50	0
収益	▲55	9	▲9	▲9	▲60	▲23	▲5	▲5	▲45	▲5
販売価格	14	32	23	0	▲5	▲9	23	14	14	18

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	食 料 品	建設関連	そ の 他
売 上 額	10月～12月と比較	▲ 50	▲ 14	▲ 100	▲ 29
	4月～6月の見通し	0	▲ 14	0	14
収 益	10月～12月と比較	▲ 45	▲ 14	▲ 88	▲ 29
	4月～6月の見通し	▲ 5	0	▲ 13	0
販売価格	10月～12月と比較	14	29	13	0
	4月～6月の見通し	18	14	38	0
仕入価格	10月～12月と比較	18	14	25	14
	4月～6月の見通し	32	29	50	14
在 庫	10月～12月と比較	0	0	▲ 13	14
	4月～6月の見通し	9	0	13	14
資 金 繰	10月～12月と比較	▲ 14	▲ 29	▲ 13	0
	4月～6月の見通し	0	▲ 14	▲ 13	29

概 況

調査先小売業全体の業況を前年同期（20年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先19%、「変らず」の先23%、「減少」した先58%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査より15ポイント改善しました。

収益は「増加」した先19%、「変らず」の先23%、「減少」した先58%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査より15ポイント改善しました。

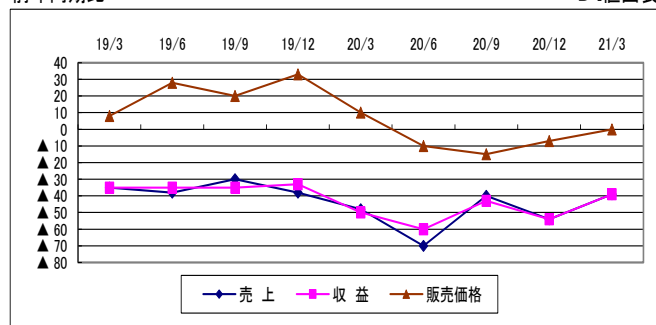
販売価格は「増加」した先10%、「変らず」の先80%、「減少」した先10%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は0となり、前回調査より7ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(20/12)	7	5	29	▲54
	今回(21/3)	8	9	24	▲39
収益	前回(20/12)	7	5	29	▲54
	今回(21/3)	8	9	24	▲39
販売価格	前回(20/12)	4	30	7	▲7
	今回(21/3)	4	33	4	0

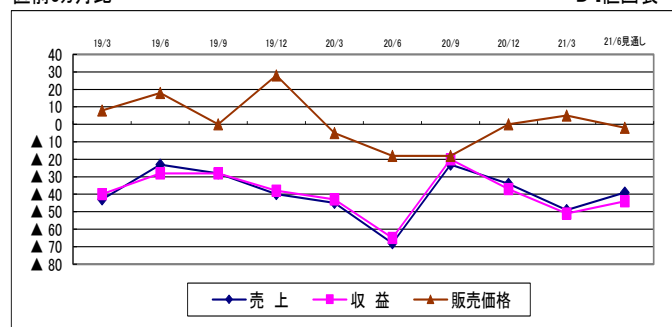
前年同期比

D I 値図表



直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6見通し
売上	▲43	▲23	▲28	▲40	▲45	▲68	▲23	▲34	▲49	▲39
収益	▲40	▲28	▲28	▲38	▲43	▲65	▲20	▲37	▲51	▲44
販売価格	8	18	0	28	▲5	▲18	▲18	0	5	▲2

動 向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善し、販売価格は上昇しました。
内訳をみますと、衣料品・その他が改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は上昇しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善し、販売価格は下降する見通しです。

調査員のコメントには、「一年前はコロナ禍による影響から売上高が減少したが、その後テイクアウトや宅配注文が増加したことで、現在は売上高が増加傾向にある」、「コロナ禍の影響よりも、地域の人口減少による売上の減少を実感している」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	衣 料 品	食 料 品	そ の 他
売 上 額	10月～12月と比較	▲ 49	▲ 83	▲ 77	▲ 23
	4月～6月の見通し	▲ 39	▲ 83	▲ 46	▲ 23
収 益	10月～12月と比較	▲ 51	▲ 100	▲ 77	▲ 23
	4月～6月の見通し	▲ 44	▲ 100	▲ 46	▲ 27
販売価格	10月～12月と比較	5	▲ 50	0	23
	4月～6月の見通し	▲ 2	▲ 50	8	5
仕入価格	10月～12月と比較	17	0	15	23
	4月～6月の見通し	15	▲ 17	15	23
在 庫	10月～12月と比較	5	0	15	0
	4月～6月の見通し	▲ 5	▲ 17	▲ 8	0
資金繰	10月～12月と比較	▲ 29	▲ 50	▲ 46	▲ 14
	4月～6月の見通し	▲ 27	▲ 50	▲ 39	▲ 14

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（20年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変わらず」の先34%、「減少」した先43%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲20となり、前回調査より3ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先17%、「変わらず」の先46%、「減少」した先37%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲20となり、前回調査より3ポイント悪化しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(20/12)	9	11	15	▲17
	今回(21/3)	8	12	15	▲20
収益	前回(20/12)	7	15	13	▲17
	今回(21/3)	6	16	13	▲20

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回 8→今回 17
- ・ 同 収益：前回 25→今回 8
- ・ 建築売上：前回▲44→今回▲56
- ・ 同 収益：前回▲50→今回▲50

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

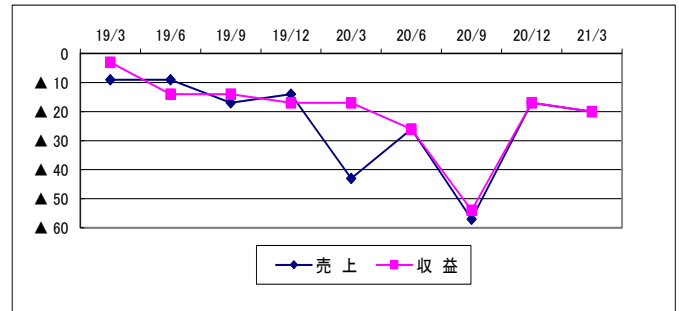
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善の見通しです。

調査員のコメントには、「コロナ禍において、外出自粛傾向によって住宅リフォーム工事が増加しており、今後の受注を数件見込んでいる」、「人手不足の問題を抱えており、人材の確保と技術の継承が課題となっている」といったものがありました。

前年同期比

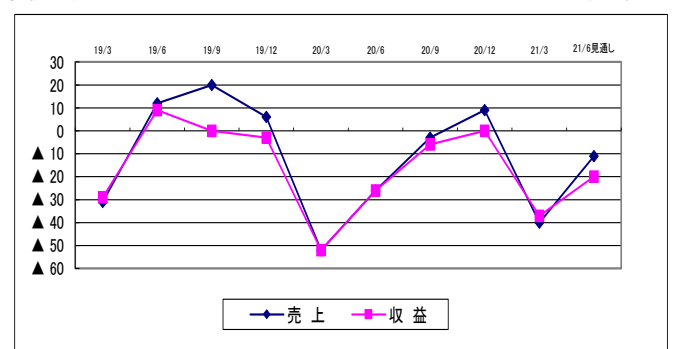
DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3
売上	▲9	▲9	▲17	▲14	▲43	▲26	▲57	▲17	▲20
収益	▲3	▲14	▲14	▲17	▲17	▲26	▲54	▲17	▲20

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6見通し
売上	▲31	12	20	6	▲52	▲26	▲3	9	▲40	▲11
収益	▲29	9	0	▲3	▲52	▲26	▲6	0	▲37	▲20

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	土 木	建 築	そ の 他
売 上 額	10月～12月と比較	▲ 40	8	▲ 81	▲ 29
	4月～6月の見通し	▲ 11	▲ 25	0	▲ 14
施 工 高	10月～12月と比較	▲ 46	0	▲ 81	▲ 43
	4月～6月の見通し	▲ 14	▲ 42	6	▲ 14
収 益	10月～12月と比較	▲ 37	0	▲ 69	▲ 29
	4月～6月の見通し	▲ 20	▲ 42	0	▲ 29
請負価格	10月～12月と比較	▲ 3	8	▲ 13	0
	4月～6月の見通し	▲ 9	▲ 17	▲ 6	0
材料価格	10月～12月と比較	37	17	56	29
	4月～6月の見通し	29	8	44	29
在 庫	10月～12月と比較	3	▲ 8	13	0
	4月～6月の見通し	3	▲ 8	13	0
資金繰	10月～12月と比較	0	17	▲ 6	▲ 14
	4月～6月の見通し	11	17	0	29

概 況

調査先サービス業全体の業況を前年同期(20年1~3月)と比較してみますと、売上で「増加」した先11%、「変らず」の先26%、「減少」した先63%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲52となり、前回調査より6ポイント悪化しました。

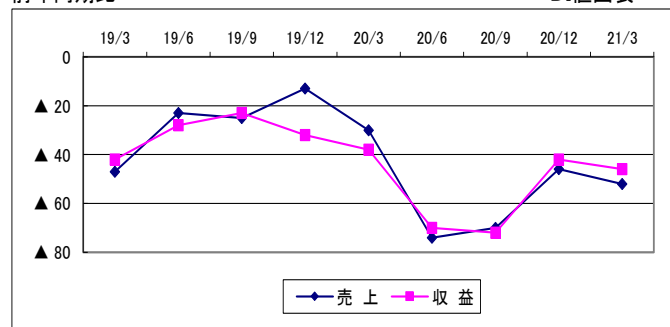
収益は「増加」した先14%、「変らず」の先26%、「減少」した先60%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲46となり、前回調査より4ポイント悪化しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(20/12)	7	14	31	▲46
	今回(21/3)	6	13	33	▲52
収益	前回(20/12)	8	14	30	▲42
	今回(21/3)	7	14	31	▲46

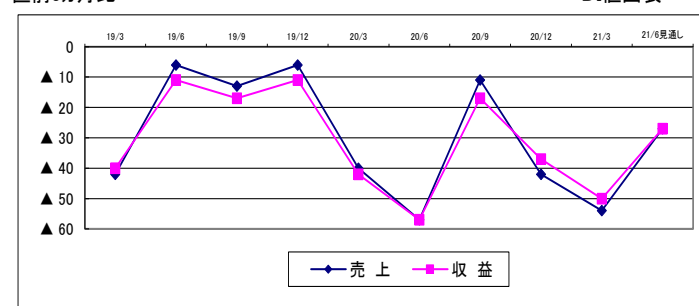
前年同期比

DI値図表



直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6見通し
売上	▲42	▲6	▲13	▲6	▲40	▲57	▲11	▲42	▲54	▲27
収益	▲40	▲11	▲17	▲11	▲42	▲57	▲17	▲37	▲50	▲27

動 向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、車両関係が悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善の見通しです。

調査員のコメントには、「売上高を増加させるため、IT人材の育成や技術力強化が必要と考えている」、「緊急事態宣言の発出およびGOTOトラベルの一時中断により、観光客が減少し、非常に厳しい状況が続いている」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	理容美容	車両関係	そ の 他
売上 額	10月~12月と比較	▲ 54	▲ 78	▲ 50	▲ 48
	4月~6月の見通し	▲ 27	▲ 56	▲ 43	▲ 10
収 益	10月~12月と比較	▲ 50	▲ 78	▲ 50	▲ 41
	4月~6月の見通し	▲ 27	▲ 67	▲ 36	▲ 10
料金価格	10月~12月と比較	▲ 2	0	▲ 14	3
	4月~6月の見通し	2	0	▲ 14	10
材料価格	10月~12月と比較	21	11	29	21
	4月~6月の見通し	19	11	21	21
資金繰	10月~12月と比較	▲ 17	▲ 22	▲ 21	▲ 14
	4月~6月の見通し	▲ 15	▲ 22	▲ 21	▲ 10

経営上の問題点 【複数回答】

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 51.6%	利幅の縮小 38.7%	人手不足 25.8%
卸売業	売上の停滞・減少 68.2%	同業者間の競争の激化 45.5%	利幅の縮小 27.3%
小売業	売上の停滞・減少 51.2%	商圏人口の減少 31.7%	大型店との競争の激化 24.4%
建設業	売上の停滞・減少 60.0%	人手不足 51.4%	材料価格の上昇 31.4%
サービス業	売上の停滞・減少 55.8%	人手不足 26.9%	商圏人口の減少 21.2%

経営施策 【複数回答】

	1 位	2 位	3 位
製造業	経費を節減する 54.8%	販路を広げる 38.7%	新製品・技術を開発する 35.5%
卸売業	経費を節減する 68.2%	販路を広げる 50.0%	情報力を強化する 40.9%
小売業	経費を節減する 56.1%	品揃えを改善する 34.1%	売れ筋商品を取扱う 24.4%
建設業	人材を確保する 54.3%	経費を節減する 45.7%	情報力を強化する 40.0%
サービス業	経費を節減する 44.2%	販路を広げる 28.8%	技術力を強化する 26.9%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2021年 3月
2021年 1月～ 3月期の実績および見込み
2021年 4月～ 6月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）
回答企業数 181社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合 計
31	22	41	35	52	181

6. 分析方法
各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

「新型コロナウイルス肺炎対応 金融相談窓口」の設置について

さまざまな業種のお客さまに、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大しております。
当金庫では、下記のサテライト店を除く本支店窓口に「新型コロナウイルス肺炎対応 金融相談窓口」を設置しております。各種経営相談や、円滑な資金供給を通じて地域をサポートいたします。

サテライト店（相談窓口を設置していません）

温根湯支店、相内支店、ことぶき支店、南大通支店【北見市】
南支店、しらかば支店【帯広市】
南が丘支店【紋別市】

本店営業部では現在、土・日・祝日もご相談を承っております。
なお、本店営業部の土・日・祝日営業は、令和3年5月1日(土)より、
日曜日のみの営業に変わります。

オホーツク圏経済情勢報告（令和2年10～12月期）概況

	前回(2年11月発表)	今回(3年2月発表)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている 【判断の下方修正は、令和2年1-3月期以来、3期ぶり】		個人消費は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 一方、観光は、感染の再拡大により、足下では弱い動きとなっている。また、雇用は、感染症の影響により、弱い動きが続いている。
	前回(2年11月発表)	今回(3年2月発表)	前回比較	
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		
観光	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、足下では弱い動きとなっている		
雇用	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている		
公共事業	前年を下回る	前年を下回る		
住宅着工	前年を上回る	前年を上回る		
先行き	新型コロナウイルス感染症の影響が続くなかで、感染拡大の防止策を講じつつ、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症の動向が地域経済に与える影響に十分注意する必要がある。			